

## 第2章 都市計画の目標

### 2-1 広域圏における本市の位置付け

第5次宝塚市総合計画では、広域圏における本市の位置付けについて、以下のように整理しています。

#### 阪神間モダニズム文化と多様な都市機能を持つ阪神地域

- 阪神地域は、東は大阪府、西は神戸地域と北播磨地域、北は丹波地域に接し、南は大阪湾に面しており、六甲山系、長尾山系、北摂連山、武庫川、猪名川などの豊かな自然に恵まれ、「阪神間モダニズム」に代表される伝統ある独自の文化が育まれてきました。本市においては、大正から昭和初期にかけて、独自の文化の発展がみられました。
- 大阪・神戸の二大都市の間であって、多様な都市機能が整った住宅地として成長し、全国的に有名な観光文化拠点や空港・港湾・高速道路などの物流基盤を有しており、京阪神都市圏において重要な位置を占めています。

#### 住宅都市、観光文化都市として阪神地域の一翼を担う宝塚市

- 本市は、阪神地域の中の市街地エリアと田園農村エリアの両方にまたがり、六甲山系と長尾山系の間を流れる武庫川溪谷から下流域に広がる扇状地などに市街地を形成しています。
- 宝塚歌劇をはじめとする観光文化都市、神戸・大阪大都市圏の住宅都市として、阪神間らしさの形成に重要な役割を担っています。

#### 都市特性を強めつつ、求められる広域的な連携や機能分担

- このため、本市としての都市の特性を今後も一層強めながら、行政区域を超えた広域的な連携や機能分担を進めていくことが求められています。

## 2-2 人口減少社会に向けた都市づくりの考え方

第5次宝塚市総合計画では、人口減少社会に向けた都市づくりの考え方について、以下のよう整理しています。

### 目前に迫っている人口減少期

- 本市では、これまでの10年間で、人口が約4パーセント（約1万人）増加したものの、近年は微増にとどまり、数年後には横ばいから減少期に転換すると予測されます。
- 少子化、高齢化の進展や小規模世帯の増加など、これまでのファミリー世帯中心から家族形態の多様化が進行することが予想されます。

### 拡散型土地利用の進行により局所的な集中と空洞化が発生

- 人口減少期を目前にする中、これまでの土地利用を振り返ると、宝塚ファミリーランド跡地をはじめとする観光拠点での大規模な土地利用転換が行われ、工場などの都市機能の流出も相次ぎました。また、山麓部のいわゆるオールドニュータウンなどでは人口減少傾向が続く一方、市街地農地では宅地化が進行したことで局地的な人口増を招き、社会資本の不均衡をもたらしています。こうした土地利用の背景には、市場経済の動向や産業構造の変化、少子化や高齢化の進行などが考えられます。
- このように少子化や高齢化、人口減少、世帯の多様化をはじめとする社会経済情勢が大きく変化していく中で、今後もあるべき姿と乖離した機能拡散型の土地利用が進行すれば、生活環境の悪化、中心市街地の活力の低下、環境負荷の増大や本市固有の自然、歴史文化資源の喪失につながり、これに行政運営コストの増加が重なり、結果として本市全体の魅力が低下していくことが懸念されます。

### コンパクトな都市づくりへの転換が必要

- これからの土地利用は、少子高齢社会の進展、人口減少社会の到来を前提として、既存の社会資本を最大限に活用し、無秩序な都市機能の拡散を抑制しつつ、必要なところに適切な都市機能を集積させる、といったコンパクトなまちづくりへの転換が必要です。
- そのうえで、生活者重視の視点、すなわち人と地域、人と人のつながりを意識した快適な都市環境を創造し、日常生活を支える交通ネットワークの充実と歩いて暮らせるまちづくりを合わせて進めていきます。
- このように、社会（コミュニティ）・環境（エコロジー）・経済（エコノミー）の総合的な視点をもって、持続的発展の可能な土地利用を促進していくことで、本市の将来都市像の実現をめざします。

## 2-3 めざす将来都市像

- 本市では、第5次宝塚市総合計画の基本構想において、“めざす将来都市像”を「市民の力が輝く共生のまち宝塚」と定めており、都市づくりを実践する都市計画においては、この将来都市像を実現することを目標とします。
- 将来都市像の実現に向け、これからの都市空間のイメージとして、「市民と自然環境と歴史がつくりだす魅力ある文化都市」を掲げ、「庭園都市」「居住文化創造都市」「芸術レクリエーション都市」という3つのコンセプトによる実践をめざします。このコンセプトは、本市の魅力と個性を活かした都市づくりに取り組みめるよう、本市の沿革や社会・経済・行政・歴史・文化などの現状、市民アンケートで示された現在の宝塚市への認識などを踏まえ、設定するものです。
- 都市づくりにおいては、将来都市像の実現に向けた諸活動が受容できるよう、都市計画を通じて将来に備える必要があります。また、少子高齢社会や人口減少社会、環境共生社会といった時代の要請への対応が求められます。そのため、前マスタープランでの取り組みを継承するとともに、安全、保健、利便、快適、文化といった要件を満たしつつ、将来に合理的な土地利用となるよう、その時々において市民、行政、事業者、関係者との協働により、継続的な都市の整備・開発・保全といった活動に取り組みます。

＜第5次宝塚市総合計画に定める将来都市像＞

**市民の力が輝く共生のまち宝塚**  
 ～住み続けたい、関わり続けたい、訪れてみたいまちをめざして～

＜都市空間のイメージ＞

市民と自然環境と歴史がつくりだす魅力ある文化都市

武庫川と市街地



宝塚歌劇



清荒神



住宅地



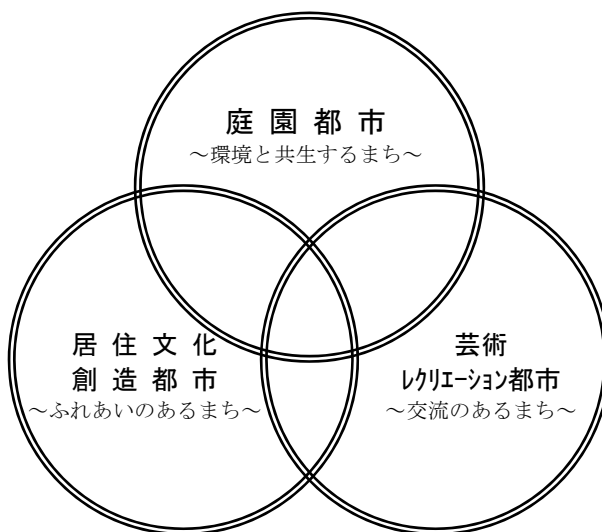
中心市街地



中山寺



＜都市づくりのコンセプト＞



### (1) 庭園都市 ～環境と共生するまち～

- 本市は、六甲山系・長尾山系の緑地帯とそこから流下し市域の中央を流れる武庫川に象徴される、水と緑に恵まれた豊かな自然によって成り立っています。本市では、これら貴重な自然資源のもつ魅力を活かしつつ、快適で災害に強い都市空間づくりをめざしています。
- また、持続可能な都市づくりの観点から、地球温暖化の抑制、生物多様性の保持、資源とエネルギーの有効利用など、環境負荷の低減が求められており、本市のあらゆる都市活動において自然環境と共生する視点が大切です。
- 「庭園都市 ～環境と共生するまち～」という本市の持つ普遍的な都市イメージを継承しつつ、21世紀から未来に向けて、自然環境と共生する持続可能な環境先進都市をめざします。

### (2) 居住文化創造都市 ～ふれあいのあるまち～

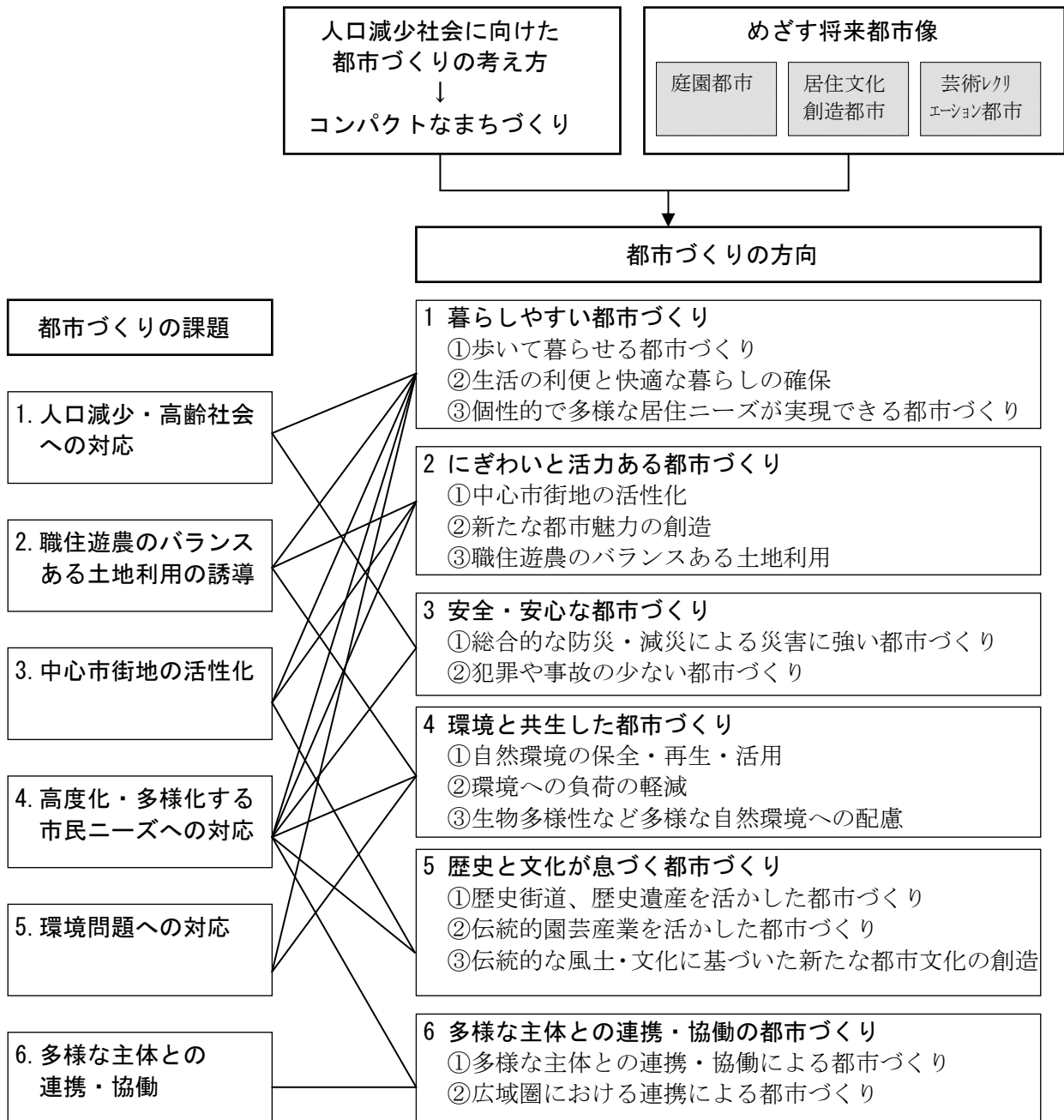
- 本市では、古代から近世にわたって街道沿いを中心に宿場町や農村集落が形成されたほか、近代には鉄軌道の発達と並行して住宅地開発が行われ、田園生活空間とモダンで瀟洒な都市生活空間とが複合する独自の居住文化を形成してきました。
- 市制施行以来、人口は約4倍、世帯数は約6倍に増加していますが、近年では世帯の小規模化や、少子化、高齢化が進行していることから、これまでの居住文化を継承し、近年までに構築されてきたコミュニティを維持、発展させていくことが大切です。
- 「居住文化創造都市 ～ふれあいのあるまち～」という、自然性と都市性を合わせ持った本市の普遍的な都市イメージを継承しつつ、市民のまちづくりへの参画と連帯により、自律性と独自性あるコミュニティ文化を構築し、暖かいふれあいのある自立した暮らしが持続できる居住環境の実現をめざします。

### (3) 芸術レクリエーション都市 ～交流のあるまち～

- 本市には、古代から現代まで、人々が往来する芸術・レクリエーションの場が多数存在し、発展してきました。
- 古代から中世にかけては、中山寺や清荒神清澄寺に代表される多くの神社仏閣、平安期に発祥がさかのぼる花卉・植木産業、旧小浜宿や農村集落など、有形無形の文化資源が形成され、現代に継承されています。また、明治初期の宝塚温泉の開設と温泉街の形成以来、宝塚ホテル、ダンスホール、映画撮影所、ルナパークを前身とする宝塚ファミリーランドなどが次々と建設されたほか、大正期には宝塚少女歌劇の発足、宝塚音楽歌劇学校の設立などにより、現在においても宝塚歌劇団として全国的にも有名な独自の芸術文化を形成してきました。
- 近年では、手塚治虫記念館、宝塚文化創造館、シネピピア、ベガ・ホール、ソリオホール、国際文化センター、小浜工房館、スポーツセンター、あいあいパーク、ナチュラルスパ、中央図書館、公民館、宝塚福祉コミュニティプラザなど、専門性を有し交流の場ともなる公共施設が整備されています。
- 六甲山系・長尾山系や北部地域、武庫川沿岸においては、宝塚（阪神）競馬場や山間部のゴルフ場、県立宝塚西谷の森公園、長谷牡丹園、西谷ふれあい夢プラザ、宝塚自然の家や武庫川河川敷緑地など、市民のみならず広域圏からの来訪者にとって観光や交流、体験、レクリエーションの場となる豊富な資源が整備されています。
- 今後は、観光・文化行政を取り巻く社会情勢や価値観の多様化・高度化にも対応しながら、来訪者も含めた市民の様々な活動や交流を活性化させ、都市としての魅力の向上につなげていくことが大切であり、その目標として私たちが共有するイメージを「芸術レクリエーション都市～交流のあるまち～」と設定し、宝塚らしい観光、交流、健康づくり、芸術・文化の醸成、屋内外レクリエーションといった新たな展開の実現をめざします。

## 2-4 都市づくりの方向

○都市づくりの課題、広域圏における本市の位置付け、人口減少社会に向けた都市づくりのあり方、めざす将来都市像を踏まえて、本市の都市づくりの方向を「暮らしやすい都市づくり」「にぎわいと活力ある都市づくり」「安全・安心な都市づくり」「環境と共生した都市づくり」「歴史と文化が息づく都市づくり」「多様な主体との連携・協働の都市づくり」とします。



## (1) 暮らしやすい都市づくり

### ①歩いて暮らせる都市づくり

#### <公共交通の利用増進と交通ネットワークの充実>

○車依存型のライフスタイル（モータリゼーション）の進展や少子化や高齢化の進行による利用者の減少のため、公共交通のサービス水準の低下が懸念されます。公共交通の利用促進を図るため、本市の公共交通のあり方を検証するとともに、市や公共交通事業者などの役割と責務を明確にし、サービス水準の維持・充実に向けて取り組みます。

#### <交通バリアフリーと公共公益施設のユニバーサルデザインの推進>

○公共交通の利用促進にあわせて、高齢者や障がいのある人を含む、すべての人にやさしい安全で快適な道路環境や公共交通施設、公共公益施設などの整備を進めます。  
○こうした公共交通の充実とバリアフリー化、ユニバーサルデザインの推進により、歩いて暮らせる都市づくりをめざします。

### ②生活の利便と快適な暮らしの確保

#### <日常生活を支える地域核と生活拠点の形成>

○鉄道駅を中心とした地域核や近隣センターなど生活拠点に日常生活に欠かせない生活利便施設（買い物、医療、福祉、駐輪場など）や行政サービス施設など必要な都市機能の集積を促進し、暮らしやすい都市づくりをめざします。

#### <身近な快適空間の保全、創出>

○街路や住宅敷地内の緑化（花）や生垣などによる緑豊かな潤いのある住環境を創出します。  
○通過交通を日常生活の場からできる限り分離するとともに、自転車の安全で快適な利用を地域で支える対策を進めます。  
○清潔で美しいまちを維持するため、環境衛生・都市美化に対する諸施策を推進します。

### ③个性的で多様な居住ニーズが実現できる都市づくり

#### <個性を活かした地域づくり>

○住宅地の立地性と歴史的経緯、開発形態、住居形態などそれぞれの特性に基づいて、個性と調和のある美しいまちなみをつくります。

#### <多様な居住スタイルへの対応>

○都市居住、郊外居住、田園居住などの地特性や、高齢者、障がいのある人、子育て世帯、単身者、ファミリー、熟年世帯など家族形態により異なる多様な居住ニーズに対応した都市づくりを推進します。

## (2) にぎわいと活力ある都市づくり

### ① 中心市街地の活性化

#### <適切な役割分担による都市核と地域核の形成>

○中心市街地においては、都市核として、複合的な機能の集積、公共施設の利便性の向上、交流促進施設の充実による活性化をめざします。また、都市核を除く鉄道駅前や周辺地区については、都市核との適切な役割分担のもと、日常生活に必要な都市機能の集積を促進します。

#### <商業・観光機能の充実>

○観光集客施設間の連携強化、武庫川一帯の回遊性を意識した集客事業展開など、商業・観光機能の充実を図ります。

#### <大規模な土地利用転換の適切な誘導>

○中心市街地における大規模な土地利用の転換については、中心市街地の活性化の視点から適切な誘導に努めます。

#### <多様なライフスタイルへの対応>

○市民の豊かな暮らしが実現できるよう、生涯学習や文化活動、スポーツレクリエーション活動など多様なライフスタイルに応じた都市機能の充実を図ります。

#### <宝塚の顔となるにぎわいの演出、景観形成による活性化>

○中心市街地は、商業、業務、観光、芸術、文化など本市のにぎわいと魅力の中核となる多くの施設が立地し、さらに、武庫川や後背の自然緑地が宝塚らしい雰囲気を醸し出しています。これらの特性を活かして、宝塚の顔となるにぎわいの演出や景観形成により、活性化を推進します。

宝塚大劇場



## ②新たな都市魅力の創出

### ＜魅力ある都市機能の集積と広域的な交流の活発化＞

- 自然豊かな北部地域や宝塚歌劇、宝塚温泉、宝塚（阪神）競馬場などのある武庫川流域、清荒神や中山寺などの歴史的資源がある地区などにおいて、多様な宝塚の「遊」の資源を活かし、都市サービス機能に配慮した広域性のある交流拠点を形成するなど、より多くの人々が訪れてみたいと思う観光都市づくりを進めます。

## ③職住遊農のバランスある土地利用

### ＜住宅、商工、農林、観光のバランスある土地利用による都市活力の維持＞

- 工場、レジャー施設、保養所の転出や生産緑地の減少に伴い、沿道型商業施設や住宅の立地が進んでおり、職住遊農のバランスが崩れつつあります。都市の活力を維持していくために、職住遊農のバランスある土地利用を誘導します。



### (3) 安全・安心な都市づくり

#### ①総合的な防災・減災による災害に強い都市づくり

##### <延焼防止機能と避難地・避難路の確保としての自然緑地などの保全>

- 自然緑地などの保全により、水害、崖くずれなど自然災害の防止に努めます。
- 水害、崖くずれなどの地形を要因とする自然災害に対処するため、恒久的な防災対策を推進します。また地震、火災などの災害時の避難路や避難地となるオープンスペースを確保するとともに地域の防災拠点を整備し、安全な住環境の形成を図ります。
- 防災ネットワークとして、南部市街地周辺の自然緑地、武庫川の水系などを保全し、防災帯、避難路としての活用を図ります。

##### <災害に強い都市施設・建築物の誘導>

- 災害発生時に市民の防災・避難拠点となる庁舎、消防署、学校園をはじめとする市有建築物などについては、「宝塚市耐震改修促進計画」に基づき、計画的に耐震化整備を推進します。
- 電気、電話、ガス、水道などの施設については、各事業者の協力のもとに防災機能の強化を図るとともに、非常時にはライフラインの情報が一元化され市民にわかりやすく伝わる情報ネットワークの構築を推進します。
- 市街地の公園・緑地については、都市内の貴重な緑地空間として整備、拡充を推進するとともに、他の公共施設との連携を図りながら、防災拠点としての機能の充実を図ります。

#### ②犯罪や事故の少ない都市づくり

##### <道路や公園など、交通事故や犯罪の未然防止の配慮>

- ガードレールやミラーなどの交通安全施設や街路灯の整備と適正な維持管理、放置自転車の解消に向けた取り組みの推進など、地域の安全性を高めるための整備を推進します。

##### <地域コミュニティと連携した防犯まちづくりの推進>

- 地域コミュニティとの連携による防犯性の高いまちづくりを推進します。

砂防ダム(ゆずり葉)



## (4) 環境と共生した都市づくり

### ①自然環境の保全・再生・活用

#### <豊かな自然環境の保全と再生>

- 市域の3分の2を占める六甲山地、長尾山地の豊かな山並みは、本市のイメージである緑豊かな都市を形成しており、南部市街地においては間近にある市街地の借景として、また北部地域では山並みに囲まれた田園風景を醸しだしています。この豊かな自然と身近にふれあう場であるかけがえのない山並みを守り、育て、次世代に継承します。
- 市域の中央を流れる武庫川をはじめ、山間部から市街地へ多くの中小河川が流れ、また多くの溜池が点在するなど、本市は水空間に恵まれています。この河川・溜池などの水網を保全・活用し、人々にうるおい、やすらぎ、憩いを与え、利用しやすい親水性や緑化に配慮した水辺空間の形成を推進します。
- 農地は、生産の場であるとともに、都市における緑地として重要な要素であり、蓄積されてきた農業技術や文化を住民に提供する場でもあります。特に伝統の花弁・植木生産地は、生産緑地地区の決定により都市の緑地空間として位置付け、住民を対象とした新しい花と緑の利用を提案するアメニティ空間として活用を図ります。

#### <市民活動を通じた幅広い自然環境の保全と再生>

- 里山の保全・再生・活用については、市民団体の育成、活動支援など、市民との連携・協働により推進します。
- 民有地の緑化（花）や、まちかど花壇など、住民とのパートナーシップによる整備・管理・運営を促進します。

#### <市民への開放性の高いレクリエーションなどの体験の場として活用>

- 本市の豊かな自然空間（山地、河川、農地など）は、ハイキング、スポーツ・レクリエーション、体験農業、ゴルフ場など市民の憩いと安らぎの場として利用されています。自然環境との調和を図りつつ、市民への開放性の高いレクリエーションなどの場として活用します。

### ②環境への負荷の低減

#### <過度な車依存から歩いて暮らせるまちづくりを支える施策の促進>

- 地球温暖化防止に向けて、温室効果ガスの主要発生源である自動車の交通量増大への対策として、鉄道駅や公共施設に連絡するバス輸送の充実、歩行者や自転車にとって安全で快適な道づくりを促進します。また、道路網の整備による円滑な自動車交通などにより、環境負荷の低減を図ります。

#### <ストックの活用・長寿命化>

- 既存ストックの活用と長寿命化により、地球環境にやさしい都市づくりを推進します。

### ③生物多様性など多様な自然環境への配慮

#### <水源のかん養と水質などの保全による健全な水環境の確保>

- 武庫川をはじめ、中小河川、溜池などの清らかな水質と豊かな水量に恵まれた水環境を形成するため、水源のかん養と水質などの保全に努めます。

#### <野生動物の成育空間の確保された自然環境の良好なネットワークを形成>

- 生物の生態系や生息空間、植生などへの配慮、土壌・水質の保全など、気候条件や自然環境条件に配慮したまちづくりを推進します。

## (5) 歴史と文化が息づく都市づくり

### ①歴史街道や歴史遺産を活かした都市づくり

○明治以前の歴史的遺産の多くは、巡礼道、有馬街道などの歴史街道との結びつきを有しています。歴史街道をプロムナードとして活用し、それを基幹として散在する歴史遺産を保全、活用することにより、歴史的・文化的な雰囲気のある都市づくりを進めます。

### ②伝統的園芸産業を活かした都市づくり

○日本三大植木産地の1つと数えられていた、本市の伝統的な産業である園芸産業の花と緑を都市づくりに活かします。

### ③伝統的な風土・文化に基づいた新たな都市文化の創造

○武庫川の清流と温泉を基盤として、明治末期に始まった複合的な一大娯楽センター構想の展開は、「遊園地」というアイデアと世界に類をみない宝塚歌劇を作り出すとともに、宝塚らしいアーバンデザインを生み出しました。この伝統を活かし、宝塚の風土・文化に基づいた、後世に誇れるまちなみ、建築、彫刻など、先進性のある宝塚らしい風景と溶け込む優れた造形を創造します。

## (6) 多様な主体との連携・協働の都市づくり

### ①多様な主体（市民、地域社会、事業者、NPOなど）との連携・協働による都市づくり

#### <多様な主体との連携・協働の強化>

○個性と魅力のある都市づくりを進めていくためには、市民自らが地域の特性に応じた自らのまちづくりを考えていく取り組みが重要となっています。まちづくりに取り組む多様な主体との連携や協働を強化します。

#### <良好なコミュニティの形成とその人材の育成>

○市民が主体的にまちづくりに関わり、まちづくり活動を通じて良好なコミュニティが形成できるように、専門家の派遣や財政的支援などに取り組みます。

### ②広域圏における連携による都市づくり

○阪神地域は、大阪、神戸の二大都市の間であって、多様な都市機能が整った住宅地として成長し、全国的に有名な観光文化拠点や空港、港湾、高速道路などの物流基盤を有しており、京阪神都市圏において重要な位置を占めています。本市としての都市の特性を今後も一層強めながら、行政区域を超えた広域的な連携や機能分担を進めます。